

---

**うことを聞きなさい、違う！！パパは俺じゃない！というか、家族じゃないし！転生だし！ま**

美羽派の男 A

---

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

パパのことを聞きなさい、違う！！パパは俺じゃない！といふか、家族じゃないし！転生だし！まあ、いいや

### 【Zコード】

Z6736Y

### 【作者名】

美羽派の男A

### 【あらすじ】

空を見ていたら豆腐が落ちてきて、顔面に当たりショック死  
そして、神様が可哀想だから、転生させてあげるといい、お言葉に甘えて転生、そして、転生先は「パパのことを聞きなさい」の世界だった。

これから始まる、どたばたネタ有り、恋有りの物語

作者は初心者です、コメントをくれれば嬉しいです

## 説明

えつと、じんにちは、もししくは、じんばんは。

この作品は僕の大好きな作品「パパのいつ」とを聞きなさい」の一  
次創作です。

この作品は転生物です。バトルは有りません。

まあ、当たり前ですけど。駄文です……まあ、書いている内に  
治して生きたいです。

そして、独自解釈などいろいろありますが、気にせずに読んでくれ  
ると嬉しいです。

そして、作者は受験生です。あんまりかけません、ですけど、受験  
が終われば、たくさん書きたいです。

そして、自分は空派ではなく美羽派です。

# 無印～転生編～（前書き）

さういふ、駄文ですけど

## 無印～転生編～

主「あれ?」  
「どうして?」

神「うーん、あの世じゃ」

なにを言つてこらんだ?」のはげて皿に糸を生やした痛い爺ちゃんは

神「お主は死んだんじゃよ・・・」

主「は・・・死んだ? それは、嘘でしょ、僕はただ新刊を買いに本屋に入つて帰つてる途中で上を向いたら豆腐が降つてきて、それを顔面に喰らつただけ? よ・・・死ぬ要素なんて、ビニにもないじやないですか?」

神「ふむ、では、これを見てみるのじゃ」

といい神様(痛いじじい)はPSを僕に渡してきた

主「え・・・これは? PS?」

神「そりゃ、P P ジヤ」

なんで、PS 渡されたんだ? あれ、勝手に電源が付いた??

そして、画面内から動画が移りだした

「画面内」

一般人A「おい! なんか、豆腐が顔面に当たつて倒れたぞ!」

一般人B「なんで、上から豆腐降つて来たの?」

一般人C「それより……この本……」

一般人E「それを言うな……」

医師「死んでます……」

一般人達『マジで?』

医師「マジです

（終ア）

はは・・・・なにこれ・・・よく出来てるな～最近のドッキリは・・

・

神「これは、ドッキリじゃないぞ・・・」

主「嘘だ～、そんな、豆腐が空から降つて来て死ぬ人なんて、居るわけ無いじゃん」

神「現にわしの田の前に居るんじゃが」

そう言いながら、僕に指を差してきた

学校で人に指差すなて習わなかつたの?

主「神様……指差さないでください」

神「おひ・・・すまんすまん」

～10分後～

神「といつ訳でお主を転生させいやる」

主「まじすか?..」

神「まじじや」

よつしやー、第一の人生来た!!

しかも、なんか、スキル付けてくれるらしいから、ラッキーだぜ

神「決まつたかの～～?」

主「神様その前にさびいの世界に行くの?」

神「別にさびいでもいいぞ・・例えば、Fateの世界とか

主「あれ?神様Fate知ってるの?..」

神「当たり前じや、天界では有名な作品じやぞ

へえー、有名なんだ、と、その前にさびいの世界に行くか決めないと・  
・

主「学園默示録・・・死ぬな・・・Fate・・・巻き込み  
れて死ぬな 北斗の拳・・・チンピラに殺されるな・・・」

そつ考へてるとき、僕のポケットに携帯電話があることに気がついた

主（まあ、携帯で探すのもいいか……）

といい、僕は携帯を開いた

主（あ・・・・この世界いいなー）

主「神様決まりやしたぜ」

神「ど〜じや？」

主「パパのいつ」とを聞きなさいと書つ小説の世界にいきたい

神「本当にそこでいいのか？」

主「ああ、大丈夫だ」

神「では、世界は決まつた、次はスキルじゃな

もうスキルも決まつてるぜ

主「無窮の武練と黄金律と怪力のスキルを頂戴な」

神「ふむ・・・・いいじゃん！」

主「ちなみに、全てEXでよろしく」

神「欲が強いの〜まあ、いい姿はわしが勝手に決めとくからの〜」

そういうと、神様はPSを持ち、作業をし始めた

そして、僕の目の前になにかのデータが出てきた

筋力:D・耐久:C 敏速:D・魔力:E 幸運:EX

スキル:無窮の武練:EX 黄金律:EX 怪力:EX

神「これでいいかの？」

主「十分だよてか、なんで、Fate風？」

神「気分じゃ」

（10分後）

神「では、楽しんでくるんじゃぞ」

主「言われなくとも、じゃあな」

そういう僕は落ちていった

## 無印～転生編～（後書き）

筋力とかいろいろありましたけど、スキルと幸運以外あんまり意味ありません

そして、最後まで読んでくれてありがとうございます。

駄文ですが感謝です

無印～過去編1～（前書き）

馴文をどうぞ

## 無印～過去編1～

さて、僕が転生して5年目の夏が来ました・・・

この5年間原作キャラに会つていません、といつか、僕はなんで毎年、東京ビッグサイトに来てるんだろう

始めは、一回も行つていなかから「やつたぜー————！」と一歳の時はそう思ったよ、けどせ、子供の僕が毎年ここに、連れてこられて子供の体力舐めるなよー！

ま・・・今年は仮面ライダー龍騎の同人誌でも探すか・・・

母「どうしたの？奏」

あ・・・今喋つたの母さん、ちなみに、奏は僕の名前だ苗字は橘合わせて読むと 橘たちばなかなで 奏

父「大丈夫か？まさか、日射病か？」

奏「いや、父さん、母さん、なにもないよ・・・」

母「それにしても、やつぱり、奏は女の子ポイわね

父「そうだな

そつ、俺の容姿は女の子ぽかつた・・・たぶん、神様のせいだ ま・・・ちゃんとスキルが発動してるから許すけど

母「それより、開いたはよ

父「では、諸君等の無事を祈る」（敬礼）

母（敬礼）

奏（敬礼）

やつして、僕らはそれぞれ自分の趣味の所に歩き始めた

父・アイドルマスターなど　母・デコリカラなど　奏・仮面ライダー系

さあ、始めるか・・・戦争を持ち金（30000円）なんでこ  
んなにあるかつて？黄金律のおかげだよ

（～50分後～）

かなり買えたよ・・・ホッパー兄弟、王蛇などみなみに、僕は悪  
役が好きだ

?「お母さん～？」

目の前につらつらしている、女の子がいる・・・え・・・また  
か、「ミケで原作キャラに会うなんて

まあ、まあは、話しあけよつ

奏「どうしたの？」

?「お母さんとばぐれちゃったの

よく思えば、僕と同じくらいの年齢じゃん

奏「一緒に探してあげるよ」

?「いいの?」

奏「いいよ、今暇だつたから君の名前は?」

?「私の名前たかなしは小鳥遊みや 美羽みう 5歳よろしくね」（笑顔

わお、笑顔可愛い

美「お兄ちゃんは?」

奏「僕の名前は橘 奏、美羽ちゃんと同じ5歳、お兄ちゃんじゃな  
いよ」

それから、僕達は探した

（～10分後～）

美「もう、疲れたよー」

奏「大丈夫?もう少しで見つかると思つから、もひひょっと探して  
みない?」

美「わかつたよ・・・お兄ちゃん

奏「お兄ちゃんじやないよ」

- 美羽 SIDE -

もう、足がくたくただよ、お兄ちゃんがもう少しで見つかることから、いつてるけど全然会えないよ……

それに、お兄ちゃんもキツそうだし……あれ？ 本当にお兄ちゃんて男の人？

見た目適に女人に見えるけど？

美「ねえ、お兄ちゃんて男の子だよね？」

奏「うん、そうだけど……どうしたの？」

美「なにもないよ」

うーん、やっぱり、女の子ポイんだよな～

まあ、いいや

あ・・・お母さんたちだ！

- 奏 SIDE -

ぜんぜん、見つからないなーというかどんな人か覚えてない……

美「お兄ちゃん、お母さんたち居たよーー！」

お・・・見つかったんだ、よかつたじゃん

? 「美羽！ 大丈夫だつたか！」

たぶん、お父さんだな

? 「心配したんだからねー！美羽！」

お母さん、だな

? 「大丈夫だつた？ 美羽？」

お姉ちゃんだな

美「お兄ちゃんが一緒に探してくれたの」

といい、僕に向かつて指を指してきた

おいおい、美羽ちゃん人に指を指しちゃいけないでお母さんに習わなかつたのかい？

? 「美羽！人に指指しちゃ駄目！！」

美「ごめんなさい」

とそんな、やりとりを見ているとお父さんボイ人が僕に近づいてきた

? 「ありがとうな、君・・・だが、もし手を出したらコロス！！」

と小声で僕の耳元で言つてきた・・・やばいよこの人！..娘好きだよ！..

それから、何故か写真を撮り別れた

～家～

父「ふー、明日から仕事か・・・がんばるか・・・」

母「そうね、がんばりましょ」

僕の親はとある会社で働いている、まあ、そんな事はどうでもいいや、さて、今田買つたもの見てこよ

～自分の部屋～

いやー、なんて、いい部屋なんだうひこの部屋

僕はベッドにダイブしそのまま寝ついてしまった。

## 無印～過去編1～（後書き）

いつも、最後まで読んでくれてありがとうございます。  
どうしようもない駄文です

## 無印～過去編2～（前書き）

無印が続きます。  
馱文ですがどうぞ

## 無印～過去編2～

僕が学校に入つて二年が立つた

そして、今は昼休み中

1 「バス、バス」

そう・・今僕がやつてるスポーツは「ドッヂボール」

そして、僕は今コート内で、最後の一人

4 「橘さん！－！橘さん！－！橘さんナズエミテルンディス！」

橘（ボールを避けながら外野の4を見ている

あれ？あいつ、あんなに発音悪かつたけ？

5 「ダディヤーナザアーン！－（橘さあーん！）ヘニヘニ－！ナズ  
エミテルンディス！－（何故見てるんですか！－）」

奏「お前等！発音が可笑しいよ！－！」

突っ込んでいる間に、ボールに当たつてしまつた・・・・クソ！－  
あいつら許さない！－

とまあ、いろいろ合つた・・・・

（一ヶ月後）

先「あー、橘が引越しすることになった

クラスメイト『まじかよーーーー!』

先「マジだ、ちなみに、先生 彼女募集中だ」

クラスメイト『まじかーーー!』

先「今度、合コンやるから 来れたら、この店ここよ

普通・・・こんな話、転校する由で言つつか?

もう、みんな合コンの話で夢中だぞ 僕可哀想・・・マジで可哀想・  
・

（一週間後）

先 「はい、では、今日は転校生を紹介します

男1「女の子ですか？」

女1「男の子ですか？」

先 「うーん、謎です」

男2「謎てなんですか！！」

先 「その言葉の通りです」

女2「見ての楽しみで事ね」

? 「美羽どんな子だと?」

美羽「うーん、わかんない」

先 「橘君! ! 入つてもいいわよ」

橘 「こんにちは、今日転校してきた 橘 奏です。これから、よろしくお願ひします」(ペニフ)

男1 「本当だ・・・男か女かわからない・・・」

橘 「男です」

女3 「男なんだ・・・」

なに、あの3番田の子・・・田舎心があるの?まあ、まだ2年生だから・・・

美羽「あ! ! お兄ちゃん!」

? 「美羽なに言つてるの?」

橘 「えつと、誰でしたっけ?」

美羽「忘れちゃつたの?」

次回に続く

無印～過去編2～（後書き）

默文ですどうぞ

## 設定（前書き）

今回は設定です

## 設定

名前：橘 奏たちばなかなで

性別：男の娘

好きな物：ヒーロー物、漫画、小説

嫌いな物：野菜、ゲテモノ、虫、静かなどころ、豆腐

好きな人：自分をわかつてくれる人、優しい人、気前が良い人

嫌いな人：暴力を振るつてくる人、虐めてくる人

スキル：無窮の武練 黄金律 怪力 前世の記憶

無窮の武練：いついかなる状況においても体得した武の技術は劣化しない。

黄金律：人生においてどれほどお金が付いて回るかという宿命を指す  
怪力：一定時間筋力のランクが一つ上がる。持続時間は「怪力のランク」による。

前世の記憶：前世で学んだ事、記憶など全てが引き継がれる「運のランク」によつて、よりよくわかる

## 設定（後書き）

これで終わりです

無印～過去編3～（前書き）

馴文ですけど  
どうぞ

美羽「お兄ちゃん覚えてないの？」

奏 「ちよつと、待つて今思い出す・・・」

えつと、親戚の井本さんの子供？いや確かあの人今、ブリジルに移住してたし・・・佐久屋さん？いやあの人大阪だ

美羽「お兄ちゃん、美羽だよ」

美羽・・・あ・・・あ――「ミケの時に一緒に親探して、父親に手出したら殺すて言われて速く忘れよて思つて忘れたんだ

それにも久しぶりに原作キャラにあつたなー

奏 「久しぶり、それと、お兄ちゃんじゃないよ」

クラスの男子（美羽様にお兄ちゃんて呼ばれて・・・羨ましいぞ・  
・・・）

先 「感動の再開はもういいかしら？」

奏 「ありがとうございました」

女5 「先生席でござるんですか？」

男2 「先生の隣~~~~」

先 「君は後で職員室ね」

男2 「は――――――」

先 「ちゅうじき所に美羽さんの隣の席が空いてから、セレード」

男5 「先生そりは、小林の席です～～」

先 「いいのよ、平日は旅行行くやつが悪いんだから・・・・・じゃあ、そこね」

奏 「はい、わかりました」

はあ～転校で疲れるな・・・

～席に着き～

美羽 「これから、一年ぶりしづくねお兄ちゃん」

奏 「お兄ちゃんは止めてくれ・・・・・うん?」

なんか、前世で「こんな」とあつたな・・・・・

美羽 「びひしたのお兄ちゃん」

奏 「なんでもないよ」

えつと・・・・・思い出した

～思い出し～

『おはよー』『おはようございます 様』

『おはよー』『おはようございます 様』

「虜めか！！それいい初めてから、周りの目線が痛くなってきたんだよ！！！」

『それは、悲しいです 様』

「まじで、やめてくれよー！」

（終）

確かに中二の時だつたな・・・

? 「美羽・・・あの子、なんか、苦しそうな顔してるよ

美羽「そんなに私の隣が嫌だつたのかな・・・」（涙目

クラスの男子（泣かせたら・・・殺す！！

この時、クラスの男子が一致した奇跡の瞬間だつた

奏 「先生・・・保健室にいつてもいいですか？」

先 「いいけど、場所わかる？」

奏 「大丈夫です、運がいいほうですから」

EXだからだね

（廊下）

あれ？本当に保健室どこ？

マジで、わからない・・・・・・

そうだ、よし、OKこれは、罷だ・・・・この学校に保健室が無い  
と思われる・・・・罷だ！――――

ま・・・・・「冗談はこれまでにして・・・確かに母さんが道わからなく  
なつたら聞きなさいて言ひてたから

あの人聞いてみよ

奏 「すいません、保健室でどこですか？」

？ 「え・・・・」（後ろに引く

見られた瞬間にこれて酷い・・・・

（次回に続く）

## 無印～過去編3～（後書き）

すいません学校に行かないといけないので  
これで

無印～過去編4～（前書き）

馴文ですか？、どうぞ

「こは、謝るべきだな

奏 「あの・・・なんかすいません」

しかたない、自分で探すか・・・はあー、初対面の人に引かれる  
なんて悲しいな・・・

？ 「ま・・・前！！」

うん？なにか言つてる・・・て、ぎや――――――――――――！

そして、僕は会談から落ちた・・・そこから病院に運ばれ一時間く  
らい気を失つてたらしい

（病院）

医 「いや～、それにしてもすごいねー、まさか、頭から落ちて死  
ないなんて、君はなんだい？化物かい？」

奏 「化物ではないです」

医 「まあ、いいや、頭の包帯は外さないでね

奏 「はあ・・・わかりました・・・

（家）

父 「大丈夫か？痛くないか？」

奏 「痛くないよ・・・」

母 「思えばそろそろ行く時間ね」

奏 「いくてどこで?」

父 「ああ、父さん達会社転勤になつただろ、それでな、優しい夫婦がな、家に招いてくれるから、お言葉に甘えて行こうて話なんだ」

奏 「僕も行っていい?」

母 「大丈夫よ、奏と同じ歳の子供が要るらしいか、遊んでもらいなさいよ」

奏 「ありがとうね

（優しい同僚の家の前）

父 「こんばんはー」

? 「よく、来たな中に入りなよ

母 「ありがと『じやこ』ます」

奏 「ありがと『じやこ』ます」

? 「君頭大丈夫?」

奏 「大丈夫です」

（親切な人の家の中）

うはー、でかい、広い……すいこなー、この「瓜を異常だよ  
最近せんせん、原作を想い出せなくなつてきたけど……まあ、  
いいや

母 「あ・・・祐理さん、お邪魔します」（ペコリ

祐理 「よへ、来たわね」

笑顔で迎えてくれた

母 「息子の奏です。」

祐理 「本当に女の子でそそくしね、よろしくね奏ちゃん」

奏 「僕は男なので君だと思います、」  
ます

祐理 「信吾さんも挨拶してください」

信吾 「わかった、僕の名前は信吾よろしくね、奏君」

奏 「こひらかわ、よろしくお願ひします」

～5分後～

? 「パパお風呂でしたよ

僕がちよつび、「戦争論」を呼んでいると、信吾さん達の子供が来

たらしいです

? 「パパ、この人たち誰?」

父 「こんばんは、お譲ちゃん達、僕と妻は君のパパが働いてる会社の同僚だよ、こら奏!挨拶しなさい」

奏 「わかったよ・・・僕は橋 奏よろしくね」

? 「え・・・あなた?まさか、今日階段から落ちた子?」

奏 「え・・・僕の事知ってるの?」

? 「うん、今日私の田の前で階段から落ちた子でしょ・・・

えーと・・・話しかけて引いた子だ・・・

奏 (悲しい顔まさ)、これ (――)

? 「・・・なんかごめんね」(謝罪)

奏 「いえ・・・きにせずにどうぞ」

こうじて、僕はマイナスのオーラを50分間放つてた(大人達は酒を飲んでテンションがハイになっていた)

祐理「今日はもう、泊まつてこきなよ

母 「そつさせてもうひつかー...」

信吾「君も酒もひつかないで飲みなよ。」

父 「ええ・・・では・・・」（飲む）

奏 「すいません、眠くなつてきただので寝たいのですが、どうで寝たらいいでですか？」

祐理「別にいいでござりわよ、奏ちゃん」

奏 「わかりました、それと、まだと思います」

れい・・・・・寝よつかね～

」の時僕はもづマイナスオーラを放つていなかつた

? 「そつま、言こ忘れた子だ、私の名前は空よかんな

奏 「ええ・・・ようへくお願いします」（ふりふり

空 「ふりつこへるけど大丈夫?」

奏 「眠いです・・・」

空 「ビリで寝る?」

奏 「どうでもいいです・・・・・・」（あまつの腰のこまか）（あまつの腰のこまか）

空 「倒れちゃつた・・・ねえ、美羽どうすればいいこと思つ?」

美羽「ZZZ」（寝てる）

空 「どうすればいいのよーーー！」

大人達（宴会中

（翌朝）

どうやら、僕はいつの間にか寝てしまつたようだ・・・それで、おきて毎朝のジョギングをしなければ・・・

あれ？動けない・・・なんでだ？まさか、金縛り？

あれ？暖かい・・・なんだろう、呼吸音が聞こえる・・・

そう思い、僕は横を向いた・・・そうすると、空さんが居た・・・

奏 「！――」

あ・・・なんか、今更だけど、思い出した・・・空さん・・・低血圧で人に知らない間に抱きついて暖を取るんだ・・・

みんな、羨ましいかい？なら、変わってくれよ・・・僕今、空さんに腕挫十字固されて、間接決まつてるんだよ

だからって、その上に乗らないでくれーーー！  
美羽「はーー（アクビ）あ・・・お姉ちゃんずるーーー！」

と、まあ、いろいろあつた・・・

{ 次回原作入り }

無印～過去編4～（後書き）

駄文ですがすいません

夏休み（前書き）

駄文です

## 夏休み

僕が五年になつて夏休みが来た。

いつもなら、毎年どおりコミケに行くはずだったが、父さんと母さんが小鳥遊（美羽の母さんと父さん）さんと一緒に海外出張に行つた。

ちなみに、僕は家で一人・・・暇だ・・・美羽さんの家にでも行こ・・・思えば、空さんにやられてからトラウマになつていこうとしなかつたんだよなー。

そう思い僕は小鳥遊さんの家に行くことにした。

だが、この時僕は知らなかつた・・・

（小鳥遊）

奏 「こんにちは」（ドアを開ける

あれ？鍵が開くのになんで、誰もいないんだろう？けど、靴はある・

・・・

そつ思い、僕は自分の記憶を思い出し広間に移動した・・・

（広間）

あれ、泣いてる？なんでだ？

空さんは泣いてて、美羽さんも泣いて、ひなちゃんが寝てる・・・  
・うなみに、ひなちゃんは美羽さんの妹らしい。

奏 「あの・・・どうしたんですか?」

空 「グス・・・パパ達が・・・死んじゃった・・・」

奏 「え・・・どうして死んでしまったんですか?」

（説明中）

そんあ・・・飛行機が・・・落ちたなんて・・・信じられない。

そんなこと、二コツの劇でもないんだから。

そうだと、これは嘘だよ

奏 「嘘・・・ですよね?」

美羽「嘘じゃないわよーーー！」

はつあーーー怒られた・・・とこつ事は・・・これは、真実なのか・・・

奏 「まさか・・・本当にですか?」

美羽「だから。わつわつ言ひこねじやないないーーー！」

奏 「すこません・・・」

美羽「こつちじやん・めん・」

まさか・・・本当だつたとは・・・

だつて、飛行機が落ちるなんて約三百分の一の確立なんだろ・・・

あれ?今思つた・・・僕の家に親戚いなかつたんだ・・・

どひじょひ・・・

まあ、まずは自分の家に戻つて・・・

奏 「ごめんね・・・帰るよ・・・」

「家」

まずは・・・母さんの部屋だ・・・

「母さんの部屋」

えつと、まあ適当に探すか・・・

「30分後」

同人誌とかいろいろ出てきた・・・後、アルバムがでてきた それ  
と、通帳と判子・・・

通帳の中の予算額は・・・ハ!! 1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6 , 7 ,  
8 , 9 , 10 , 11 , 12 枝・・・まさか、これ黄金律のおかげが  
? そりだよな・・・すげーよ

次は父さんの所だ

「父さんの部屋」

さて、どこから探すか

「30分後」

なんか・・・あれがでてきた・・・（作者の自主規制

それと・・・こつちも通帳と手紙（？）と写真となんだ？これ暗号？

写真には・・・大学のときの友達・・・すごいな・・・太い人がいる・・・えっと・・・佐古俊太郎？誰だこの人？

それから、通帳を見てみた、こつちも同じ、桁だった・・・金ありすぎ・・・流石黄金律：EX

手紙は、え・・・「困つたら佐古君を頼つてくれ・・・後、もし死んだら葬式開かないでねよろしく、じゃ、ノシ」

佐古さんはわかつたよ、葬式も開かなくていいんだね、ノシてチャットかよ！一突つ込んだら涙が出てきた・・・

そうして、僕はその日寝てしまった

「終わり」

夏休み（後書き）

駄文でした

俺を見捨てないでくれーー（前書き）

駄文です。

それと、コメントありがといひござります。

俺を見捨てないでくれ！！

瀬川祐太 S I D E

「んにちはもししくは、んばんは瀬川祐太です。」

「こいつ誰？」て思つた人は・・・いますね・・・

作者一瀬川さんは、裕理さんの弟だよ……はい、解説終了！！

解説すぐない！！俺て一応主人公だよね！！と、心中の叫びはやめ  
て・・・と・・・

瀬川「タイミングなくしちやつたな・・・」

そんな言葉が思わず口をついて出た

ショックが大きすぎたつてのもあるし、現地調査だの事故調査がどうだのって起こったことが大きすぎてまるで、現実感がわからなかつた。

今頃になつてやつと実感がわいてきたつていうのに、周りはすっかり涙も枯れ果てている。これじゃ、泣きたくても泣けないや。

伯母「祐太さん」

瀬川「あ・・・伯母さん・・・」  
ばお

伯母「私はそろそろ帰りますけど、祐太さんはどうするの?」

瀬川「俺ももうひとつしたら、帰ります」

そう言って立ち上がった時だった俺の耳に、ひとつずつ言葉が飛び込んできた。

A 「空ちゃんは誰と暮らすのがいいかな」

B 「うちは年頃の男の子がいるから・・・ちょっと難しいわ。ひなちゃん一人なら、考えなくも無いけど」

作者「話長くなるから、飛ばすぜ・・・答えは聞いてない」

瀬川「ちよー待て」

伯母「祐太さんなに言つてる?」

瀬川「いや・・・なにも・・・」

（10分後）

まあ、いろいろあって、三人は俺が引き取ることになった

作者め飛ばしやがって

（奏SIDE）

まあ、一応僕は、美羽さんのお母さんとお父さんのお葬式行つたよ  
・・・・・

けど、あんまり覚えてないんだ・・・気晴らしに本屋にでもよう

（本屋）

…………はあ～

最悪だ・・・・なにも、やる気が起きない・・・

なんで、僕は転生したんだらうつ・・・ふと、そんな事を考へてしまった

そして、僕は思いついてしまつた・・・死んでしまえ・・・死んだけ楽になれるだらうか・・・

そうだ・・・死んでしまおう・・・どうせ、僕はこの世界にいても意味が無いんだ、なら、死んでしまえばどれだけ楽か・・・

そう思い、僕は自殺辞典という本を1200円（税込み有）で買つた。

（それから、一週間後）

僕はまだ死んでなかつた・・・死のうと頭をタンスの角にぶつけるが生きてた・・・

首を吊りうとしたら、そのヒモが切れて顔面から床にダイブ・・・そして、あれこれやり一週間がたつた日だった

（ピンポン

なんか、久しぶりに聞いた音がした

} 次回に続く }

俺を見捨てないでくれー！（後書き）

駄文ですがすいません、

ちなみに、奏君は今死にたがり状態です

さうぞ・・・俺なつて・・・（前書き）

さうぞ、黙文ですけど、お願ひします。

「…………俺なんて……

奏 「はい」（ドアを開ける

美羽「あの……今大丈夫?」（おどおど

なんだ、おどおどしてんだもん?・・・ああ、そうか、僕の手は  
傷だらけで、首にも傷の跡・・・そりゃあ、怖いよね・・・

奏 「大丈夫だよ・・・」（作り笑顔

美羽「ありがと・・・」

（ロビー）

奏 「えっと、お茶でいいかな?」

美羽「うん、ありがと!」

（5分後）

奏 「どうぞ」

美羽「ありがと!・・・」（奏の手首を見て

美羽「ねえ、手首の傷でどうやってできたの?」

なんだ、そんなことか・・・

奏 「自分でやつたんだよ……」（作り笑顔で

美羽「な……なんで、そんなことを？」

「どうやら、美羽ちゃんは怖がつてゐるらしい……だけど、質問されてるから、答えないといけないんだよね

奏 「それはね、もう、辛いんだよ……」

美羽「え……」

奏 「僕ね、親戚がいないんだよ……それに、心配してくれる人もいないし、愛してくれる人も、もういない、それに僕を見ればみんな「可愛そう」、「痛そう」、「お大事に」とか……僕の事を悲しい風にしか、見てくれないんだよ。それでさ、いろいろ考えただよ、どうせ、僕なんて生きていっても仕方が無い……生きていた所で誰も心配してくれない、どうせ、僕はずつと悲しい人ついでレッテルを貼られながら生きてくのさ……それなら、死んだほうが樂じやない？ だって、そうでしょ、死ねば母さんと父さんに会えるんだよ……そんなに、幸せなことで無いじゃん……違うかい？」

美羽「……」

奏 「ごめんね、こんな、つまらない男の子と喋つていつてもつまらないでしょ……」

美羽「そんなことないよ……」

奏 「思えば、美羽さん達はあの後誰に引き取られたの？」

美羽「お兄ちゃんが引き取つてくれた・・・」

奏 「そり・・・よかつたじやない・・・」（笑顔で）

美羽「ねえ、奏君・・・奏君の笑顔でぜんぜん笑つてゐるよ」（見えないよ・・・ねえ、奏君ちゃんと、笑つてよ・・・お願ひ）

奏 「い」めんね、美羽ちゃん・・・もひ、ちやんと笑えないんだよ」

美羽「嘘よ・・・」

奏 「嘘じやないよ、僕はもう作り笑いしかできない・・・そりだ、美羽ちゃん・・・僕ね・・・君が好きなんだよ・・今まで、言えなかつたけど・・・けど、いんな僕に告白されても嬉しくないよね・・・」

美羽「え・・・」

奏 「い」めんね、いんな」と眞つて、だけど、美羽ちゃんは僕の事好きじやないでしょ・・・」

美羽「好きよ・・・」

奏 「え・・・冗談でしょ・・・」

美羽「冗談じやないわよー本当よーー。」

奏 「そり・・・ありがとう・・・帰りなよ、そんそん帰らなこと空

さんとか心配するよ」（イスから立ち上がり

美羽「うん・・・また、今度ね」

いい子だね・・・だけど、僕は今夜自殺するよ・・・

（夜）

やつぱり、首吊りだね・・・そういう僕は、山登りに使うロープを購入した

（裕太 SHIDE）

あれ？あの子、お葬式の時にいた子だ・・・だけど、なんでロープを持つて山に向かってるんだ？

そう思い、俺はその子の跡を着けていた

（10分後）

あの子ロープを木の上に縛り付けて首を吊りつとしめる・・・止めないと

瀬川「君！――なにやつてるの！」

奏 「あ・・・こんばんは、僕はただ自殺をしようとしているだけです・・・」

瀬川「なんで、自殺なんか・・・疲れたからです」え・・・

奏 「僕はもう生きたくないんです・・・」

瀬川「はあーー、まあ、いいや一田にひつけに来てくれ」

奏 「？」（近づく）

瀬川「いいか、よく聞けよ」

奏 「はい」

瀬川「ふーーー、俺の好きな言葉でな、こんな言葉があるんだ諦めたら、そこで試合終了・・・今までに、お前はその状態だ」

奏 「なるほど・・・僕が・・・うん、その通りだ」

瀬川「というか、今のセリフ関係ないけど、お前の体とか見る限り・・・お前死ねないんじゃないのか？」

奏 「は・・・・・？」

瀬川「だって、深く傷跡が有るのに、生きてるし、首を何回も締め付けた跡があるけど、死んでないし・・・」

奏 「死ねないのか・・・仕方ない・・・納得できないけど・・・生きてみるか・・・」

そうして、僕は自分の家に帰り・・・寝た・・・そうだ、明日、佐古さんの所を訪ねてみよ・・・

むひせ・・・・俺なんて・・・（後書き）

かなりの駄文ですけど。  
すいません。

D E A D E N D 回避

納得できない方はすいませんでした！！

やつだ・・・・俺には明日がある（前書き）

駄文です。

さうだ……俺には明日がある

（？）

あれ？ ここはどうだらう？

神 「また、会つたな……少年」

奏 「あ……神様、お久」

神 「お久」

奏 「なんで、僕はここにいるんですか？」

神 「いや、お前に一つ言いたい事があつて」

何をだらう？ 僕にまた、何かくれるのかなー？

神 「よし……一度しか言わないぞ……お前死にすぎなんだよ！――！」

奏 「え……？」

神 「だから、お前死にすぎなんだよ――！ どんだけ、俺の仕事増やすんだよ――！」

奏 「え……俺死んでたんですか？」

神 「は……死んでないと、思つたのかい？ お前バカだろ……」

・出血多量で死なない奴なんていないぜ……それでさ、お前が死んでこっちくる、俺が現世に返す……お前またくる……また、返すの繰り返し……疲れるんだよ……」

奏 「すいません……」

神 「わかればよろしい」

奏 「あの……母さんと父さんて今どこいるんですか?」

神 「ああ——お前の父さんなら「エリ」の世界に転生して……・母さんは「めだかボックス」の世界に転生させたよ」

奏 「え……転生させた?」

神 「うぬ……だつてさ、お前さんの親だからさ……転生させた方がいいかな?て……あ、それと伝言があるぞ」

奏 「?」

神 「確かにどうせ、生きて80年的人生だしが、速まつただけだ、気にするなよ、大変になるのはわかるけど、それが人生というのだが、今はキックてもいつか楽になれる」だそうだ」

なんて、いい加減な親なんだ、けど……いい親だつたな

神 「では、用事は以上……じゃあな

奏 「さよなら」

神 「おっと、忘れてた・・・」これは、前世お主の部屋にあつた物  
じや、持ち帰つて遊ぶがいい」

あ・・・やつた、オーブドライバーとコアメダルとかいろいろ全部  
ある

神 「だが、あの世界の本はなじじやぞ、ではな  
そつこい、僕は現世に戻つた。

そうだ・・・・俺には明日がある（後書き）

駄文でしたけど。

美羽様のキャラソン三枚買いました――――――！

後はなんどろいど、だけです

これからも、応援よろしくお願ひします。

## みんなとワイワイ、ガヤガヤ、ザワザワ（前書き）

馴文ですけど

気づかない、うちにお気に入り登録数が23件も！！  
皆様ありがとうございます！！！

これかも、馴文ですけど、がんばらせていただきます！！

## みんなとワイワイ、ガヤガヤ、ザワザワ

（朝）

ふーー、さて、今日は佐古さんの家に行く予定のはず……

（昼間）

奏 「えっと、ここが多摩文学院大学でいいんだよね？」

そう言い彼は、大学の中に入るときだった

警備員「君ーー！勝手に入っちゃ駄目だよーー！」

奏 「え・・・・・ちょ・・・・・」

そう、奏は忘れていた・・・・警備員がいることを

（大学内）

あの後、いろいろ言いくるめなんとか、学校の中に入れた・・・・・  
といつが、なんで、警備員が佐古さん知っているんだ？

そんなにすごい人なのか？それとも、ただの先生なのかどっちだろう？

（路上觀察研究会ドア前）

え？路上觀察？なに、ホームレスでも観察する所なの？

もしくは、路上の作りを観察するかい？あー、考へてるとだんだん  
わからなくなつてくる・・・・まあ、中に入ろう・・・

～中～

中は誰もいなかつた・・・・・

なんで？まさか、部屋を間違えた？それとも・・・・はめられた！  
！！

くそ、警備員！..はかつたな！..まさか、僕はこれから拉致される  
のか！..

あー、どうしよう！..僕はまだ、死にたくないし！..でか、死んだけ  
どwww

それより・・・・あの、ダンボールの中身でなんだろう？

そう思い、僕はダンボールの中身を空けた・・・・

入っていたのは、ネコ//ミメイド系のH口本などなど

奏 「・・・・なに、これ？怖い？」

その時、ドアが開いた

？ 「ふーー、疲れた・・・・うん？」

と、太つた眼鏡を欠けてる人はこっちを見てきた

は・・・エロ本片手に立てる僕て・・・

「君はまさか……君の息子かい?」

「はい・・・そうですが」

いろいろ説明中

「なるほどー・・・君の父上が困つたら来て言つてたんだな」

ええ・・そうなんですよ」

佐古 一 だが、今日僕は瀬川君の家に行かないといけないし・・・  
そうだ！君の家は開いてるかい？

「ええ・・・空いてますけど? どうですか?」

佐古  
今から・・・・・バーでイーだ

そういう、佐古さんは電話をし始めた・・・・僕の家知ってるんですね。

卷之三

いや、まさか、僕の家でパーティーをするなんて、幼稚園以来だ

あ・・・ちなみに、今佐古さんがみんなを迎えて行つてゐるらしい。

さて、暇だ・・・・・ そうだ、前世の物があるんだ、久しぶりにそれで遊ぼ・・・

さて、コアメダルが全部ある・・・・・ よし・・・・・ 遊ぶか

奏 「あ・・・・ちゃんと、付ける・・・」

僕はオーブドライバーを腰に巻き、三枚の穴の中にコアメダルを入れて遊んでた

奏 「やつぱり、ガタキリバが好きだね」

ベルト音「クワガタ！カマキリ！バッタ！ガータガタガタキリッバ！ガタキリバ！」

おー、ちゃんとなる

（佐古SIDE）

なんか、玄関を開けてなにか聞こえると思ったら、なんか、変なベルトで遊んでるじゃないか

彼にも、あんな風に遊ぶときがあるんだな・・・

（奏 SIDE）

次は、シャウタだ・・・

ベルト音「シャチー！ウナギ！タコ！ シャシャシャウター！シャシ

ヤシャウター！」

おー、懐かしいな～

ひな 「おいたん！変な音が聞こえるー。」

瀬川 「本当だな、ひな」

？ 「こりゃないわ」

空 「うん、これはない」

奏 「な・・・・なんで、ここにいるんですか？というか・・・  
ナズエミテルンディス！！！（何故見てるんです！！）」

空 「それよりも、久しぶりね」

奏 「僕の質問は無視なんですか！」

瀬川 「あ・・・・自殺しようとしてた人」

奏 「また、ですか！！」

？ 「あ・・・謎の人」

奏 「また、ですか！というか、あなたは誰ですか！！」

ひな 「知らないひとー」

奏 「僕も知りませんよーー。」

佐古 「あ・・・・連続強盗犯！！」

奏 「佐古さんあなたもですか！…てか、してませんよ…！」

美羽 「あ・・・・奏君だ」

奏 「あ・・・・美羽さんだー」

？ 「言動がおかしい人・・」

奏 「もう、いい加減にしてください！…」

この時僕は最高に楽しかった・・・・

♪ 次回に続く♪

みんなトイワトイ、ガヤガヤ、ザワザワ（後輩たち）

駄文ですか？、ありがとうございました！

## 作者と神様（前書き）

今日は・・なにがしたいんだろう・・・  
ちなみに、コメントが作者の原動力です。  
いつもどおりの駄文です。

## 作者と神様

作者「それについても美羽ちゃんのキャラソン二つ買つたぜ  
神様「ほー、珍しい、いつもCDを買わない作者が二つも買つなん  
て、ちなみに、空ちゃんは?」

作者「僕は美羽ちゃん一筋ですよ?」

神様「とこいつ」とは、買つてないんだな

作者「YES...」

神様「で、美羽ちゃんのCD聞いたのか?」

作者「ああ、聞いたぜ最高だった

神様「この美羽コンめが・・・」

作者「それにしてもさー、話変わるけど、DMCで面白いやねドットロード・メタル・シティ」

神様「俺は嫌いだ」

作者「貴様! それは、クラウザーさんに対する冒瀧か! ... SAT  
UGAIするぞ! ...」

神様「俺はかみだぞ、貴様が勝てると思つのか?」

作者「ここは、俺の世界だ! ...」

作者「聞こえる・・・DMCFアンのみんなの声が!—俺の体をみんなに貸すぞーー。」

そういう、作者は、ギターで神様を鈍殺した

DMC信者「でた――――――！あれば、クラウザーさんの技を真似した技！「非常なるギター（真似）」だ――――――！」

こうして、第一次神様合戦が終わつた

## 作者と神様（後書き）

すいません、遊んでしまいました

駄文でしたがどうぞ

## は・・・・・殺氣!!（前書き）

駄文ですが、お願いします。

いつのまにか、26人もの人がお気に入りリストにいれてくださいました!!

こんなに、嬉しいことはありません!!

は・・・・・殺氣!!

（話し合之中）

奏 「なるほど、美羽さん達の叔父が瀬川さんだったんですね···  
···世界で狭いんだね」

瀬川 「やうだな···せまいな···」

ちなみに、今織田さんと「村さんと並び人が料理を作つていて、佐  
古さんと咲さん達はテレビゲームをしています。

ちなみに、空さんは今怒っています···なんで、怒ってるのか  
は瀬川さんから聞きました。

「いや、咲さんがお母さんと並ぶたらいいです。

ちなみに、美羽さんは美羽様と呼ばれたらしいです。

そして、今やつてゐるゲームは前世僕の部屋に有つたゲームをこまや  
つてます。

あー、久々に見るな~このゲーム···案外面白いんだよなー

そう思つてゐる間に、鍋ができて机の上に置かれた···あ、思  
い出した、飲み物がないんだ···

奏 「飲み物買つてきますけど、みなさんにがいいですか?」

作者 「「ウモツの生き血で・・・」

なんか、今変な声が聞こえた・・・まあ、いいや  
僕はみんなからの買つてきてもらいたい物を聞き、買いにいった・・・  
・・けなみに、美羽ちゃんが一緒に行きたいといつたから、一緒に  
いへりになつた

～マート 福沢～

いや～、安いな～こんなに安いなんて嘘みたいだよ

美羽 「ちゃんと、立ち直つたんだね」

奏 「うん、立ち直れたよ・・・」

美羽 「おめでとう」（笑顔）

奏 「笑顔は反則だよ・・・」

美羽 「なにか、言つた？」

奏 「なにもない」

こんなやり取りをしながら僕達はマート福沢を後にした

～次回に続く～

次回予告

テメエー・・・兄貴を何見てんだ！……ゴラア――――――

は・・・・・殺氣！（後書き）

駄文です。  
すいません

**冗談は・・・・・うん・・・・・（前書き）**

馴文ですが、すいません

いの間にか、56pt!!!

あつがんばりまわ!!

兄貴は・・・うん・・・

さて、頼まれた飲み物と美羽さんが食べたいと言つたアイスを買い  
帰る途中だつた。

「おい！ テメエーなに見てんだよ！！」

何か金髪でピアスしてる人がこっち見てくるよ・・・

て 奏  
いえ・・・・ピアスして痛くないのかな～～て思つ

「え――、本当に強がってるだけじゃないん  
ですか？」

美羽  
一か・・・・奏君・・・

「テメエ――――！ いい加減にしろよ――！」

そう言いチンピラが殴りかかってきた・・・まあ、喰らえはいいか

# 奏（喰らい吹つ飛ぶ）

やつぱく、痛いや・・・・・、ああ、こひびきや

奏（立ち上がり）「で、ピアスで痛くないんですか？」

チン1 「……君ワコー———」

あー、逃げてくよバイバイ！！

美羽 「大丈夫？」

奏 「大丈夫だ、問題ない」

美羽 「本当に」

～10分後～

かれこれ、10分たつた美羽さんは先に帰つてもらい……僕は今チンピラに囮まれています

何故囮まれてるか？簡単だよ、あのチンピラ仲間呼んできたんだよ

チン1 「兄貴こいつです！！兄貴を馬鹿にしたやつは……」

馬鹿にした？僕が？した覚えがないんだけど……

チン2 「おい！！殺ちまおうぜ！！！」

仕方ない……これは、最後の手段だけど使うしかない……あれ？あのデブの人が兄貴？

チン1 「テメエー！！何兄貴見てんだ！！SATUGAI（殺害）するぞ！！！」

作者 「SATUGAIするぞ！！」

なんか、変な人が居たスルーで

兄貴 「おいおい、子供相手に本気だすなんて、大人気ないぞ」  
(サングラスを取り

チン1 「すいません・・・兄貴」

兄貴  
「坊や、本当に俺の悪口を言つたのかい？」

「いえ、言つてません……」

兄貴 「 そうか、 じゃあ歸るぞ、 お前等・・・・ちなみに、 君て  
携帯持つてる? 」

ええ・・・持つてますけど

兄貴「交換しようか・・・」

（それから、5分後）

次回予告

**冗談は・・・うん・・・（後書き）**

馴文です、すいません

それは――――、やがて沙羅は沙羅の言ふことを止めようとした。

沙羅は沙羅の言ふことを止めようとした。

わあ―――で、やつたことほやつてもこじこじだよな?

（家に戻り）

奏 「ただいま、戻りました～」

あの後、いろいろ会つたが、まあ、そこは気にしないでください

瀬川 「あれ？ 美羽ちゃんと一緒じゃないの？」

あれ？ 可笑しい・・・先に帰つていてと言つたはずなのにな～

奏 「あ・・・すいません、買い物忘れ物が有つたので買つてきます」

（外）

さて、さつそく使う時が来た・・・兄貴

兄貴 「おう、サモ daß がどうした？」

奏 「あーー、すいませんサモさん僕の知り合いの女の子が行方不明になつたので、捜してもらえませんか？」

サモ 「いいぜ、さて、特徴とかはないのか？」

奏 「黄色い髪の毛で美人で女神で黒い服に兔のマークが有つて  
英語？で CRAZY RABBIT COMMING  
SOON！と書いてあります」

サモ 「えっと、黄色い髪の毛で、黒い服に鬼のマークな……」

奏 「あれ？ 一個無視しましたよね？」

サム 「お……いたゞ、流石サモネットワークだ これは、裏路地だな……」

奏 「感謝しますよ……サモさん」

（裏路地）

不良1 「それにしても今日はいい日だな……」

不良2 「ああ、こんな口リツ娘を捕まえられるなんて最高だな……」

不良3 「おい……誰か着たぞ……」

不良4 「なんか……女か男かわかんない奴が来た……」

不良1 「意味わかんねーよ……」

不良2 「まさか、男の娘か？」

不良3 「わ……わかんねーけど、なんか、「越後ヤ——————」——————て言いながら走ってきてる」

不良1 「なんだそれ？」

奏 「ちひやな頃から口コソンで、十五でヘンタイと呼ばれたよ……」

・・・ナビ、僕はロッキンじゃないけどね」

不良2「なんだ・・・こいつ・・・」

「僕はまだ美羽ちゃんを助けに着ただけだよ」

作者（天界からギターを落とす）

不良3 - うわ!!なんかギター降ろできただ!!!(r)

奏  
一、井戸を封する（「井戸二ノ」）

作者（天界から下ンケリート並みの硬さを誇る豆腐を落とす

なんだ・・・あの、DESUTOUHU(デス・豆腐)は・・・・

奏 「まあ、いいや……」（ギターを一の顔面に振り落とし

不良3「出たあー！謎の男の娘の必殺「竹割り」だ～～～！～～！」

なんか、謎の技を言つてゐるや・・・・・

不良2 「これは無いは」

不良1 「てか、元の奴でも駄目だろwww」

不良3 「それはDMCに対する冒?か!」

そういう、不良達は仲間割れをし始めた

奏 「さて、美羽さん帰りましょうか」（笑顔で

美羽 「え・・・・うん」

♪一応歩いている♪

奏 「『めんね、一人にさして』

美羽 「え・・・・うん、気にしないで」

奏 「これじゃ、駄目ですよね・・・」

♪次回に続く♪

♪次回予告♪

いや、俺はそんな趣味ないつす 誰か!助けてくれ!!  
美羽さんのことが好きです!!

俺、

「ああ……いや、やつたひじはめやつてかここへじただよな? (後輪)

駄文ですけど。  
読んでくれたらうれしいです

限界突破！・・・・・飲みすぎた・・・（おひおひ（前書き）

駄文ですかごお願いします！！

限界突破！……………飲みすぎた…………（おひおひ）

～自分の家～

やつと、鍋が食べれる……

僕は織田さんと二つ人に具をよそつてくれたお皿を貰った

奏 「それにしても、多數で食べるほうが美味しいですね」

仁村 「思えば、奏君の家族はどうしたの？」

佐古 「仁村君…それは…」

奏 「いいんですよ、佐古さん、小村さんだつて業とじやないん  
ですし」

仁村 「ありがとう、後小村じゃなくて仁村だよ」

奏 「すいません、小村さん業とじやないんですよ、許してください  
ることよ」

仁村 「小村じゃなくて、仁村だ」

奏 「すいません、小谷さん、間違えました」

仁村 「だから、仁村だって…とにかく、小谷て誰…！」

奏 「その内であるんじゃなんですか？小村さん」

仁村 「でるてなんだよ、だから、仁村だ」

「やり取りが30分続いた」

そして、佐古さんがお酒を飲んで狂った・・・・・

佐古 「瀬川君だから、最近の女の子は1~2歳までだよ」

瀬川 「誰か！助けてくれーーー！」

びひから、瀬川さんは助けを読んでるよつだ

まあ、僕はそんなこと興味ないけど・・・・・うん？今飲んだ飲み物苦い・・・・・とか、懐かしい味

美羽 「奏君……それお酒……」

あれ？なにか言つてる、それより僕は誰だ？まさか・・・・・神か・・

瀬川 「いや、俺はそんな趣味ないっす」

佐古 「とか、言わずにほひ、これ」（ひょっと危険な本を見せて

奏 「我は神・・・・・」

美羽 「奏君が狂つた！！」

空 「おばりやんじやないもん・・・・・おばりやんじやないもん・

・  
・

仁村 「仁村スペシャル・・・・」

なんだ・・・・この神が現れても、平伏せないのか・・・・・

奏 「な・・・・なんて、美しいんだ・・・・あなたは我が神だ・  
・」

美羽 「え・・・急になに」

奏 「あなた見たいな人がいてよかつ・・・・・（バタン）

仁村 「仁村ホッケー・・・・・」

もう・・・・・無理・・・・

こつして、鍋祭りが終了した

（翌朝）

僕はまだ寝ている

これは、寝言

奏 「あ・・・・・醤油は飲み物じゃないて・・・・グア――！」

！」

奏 「ショウゴー將軍を倒せない・・・・だと・・・・」

奏 「ジーク！醤油！－ジーク！醤油！」

奏 「俺、美羽さんのことが好きです！－！」

ちなみに、この寝言は佐古さん「村さんに聞かれていました

（次回予告）

まで！－！カレーにショウガはいれないものだ！－！　え・・・・こ  
れが・・・カレー？　ハンバーグを食べて泣いたのは初めてだ・・

限界突破！・・・・・飲みすぎた・・・・（おひおり（後書き）

駄文ですかどう読んでくれてありがとうござりますーー。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6736y/>

---

パパのいうことを聞きなさい、違う！！パパは俺じゃない！というか、家族じ

2011年11月27日21時51分発行